

厚生労働科学研究費補助金（慢性の痛み対策研究事業）  
分担研究報告書

和歌山県紀北地方の看護職員の腰痛実態調査についての研究

研究分担者 川上 守 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院整形外科 教授

研究要旨

本研究の目的は、看護職員の腰痛の実態をアンケート調査し、看護職員の腰痛発生の要因を把握することである。看護職員 97 人（男性 6 人、女性 91 人：平均年齢 39.5 歳）を対象に、Roland-Morris Disability Questionnaire (RDQ、腰痛による日常生活への障害度の測定)、Self-Rating Questionnaire for Depression (SRQ-D、仮面うつ自己評価表)、日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ)、Short Form 36-Item Health Survey (SF-36、包括的健康関連 QOL の測定)、腰痛 Visual Analog Scale (VAS)、平成 23 年度厚労省「慢性の痛み対策研究事業」で作成した生活状況質問票を用いてアンケート調査を行った。まず、腰痛あり群と腰痛なし群を比較検討した場合、両群の年齢、性に差はなかった。腰痛あり群では、機能的障害と SRQ-D の点数が高く、JOABPEQ の社会生活障害、心理的障害、SF-36 の VT:活力の点数が有意に低かった ( $P < 0.05$ )。また、収入への満足度が低く、社会的立場への理解が有意に高かった ( $P < 0.05$ )。次に、疼痛あり群の中で年収 450 万円までの群と (65 名中 31 名、47.7%) と年収 451 万円以上 (65 名中 34 名、52.3%) の群を比較検討した場合、年収 450 万以上の群は喫煙率と情緒不安定になったという項目が有意に高かった ( $P < 0.05$ )。これらの結果から、看護職員の腰痛発生の要因を評価するには、器質的要因だけでなく、心理社会的要因にも着目する必要がある。

A．研究目的

看護職員の腰痛の実態をアンケート調査し、看護職員の腰痛発生の要因を把握することである。

B．研究方法

看護職員 97 人（男性 6 人、女性 91 人：平均年齢 39.5 歳）を対象に、Roland-Morris Disability Questionnaire (RDQ、腰痛による日常生活への障害度の測定)、Self-Rating Questionnaire for Depression (SRQ-D、仮面うつ自己評価表)、日本整形外科学会腰痛評価

質問票 (JOABPEQ)、Short Form 36-Item Health Survey (SF-36、包括的健康関連 QOL の測定)、腰痛 Visual Analog Scale (VAS)、平成 23 年度厚労省「慢性の痛み対策研究事業」で作成した生活状況質問票を用いてアンケート調査を行った。まず、腰痛があると回答した群となしと回答した群に分け、統計学的に比較検討した。次に、疼痛あり群の中で年収 450 万円までの群と (65 名中 31 名、47.7%) と年収 451 万円以上 (65 名中 34 名、52.3%) の群に分け比較検討し有意水準 5% を有意差ありと判断した。

本研究は、すべての被験者に参加の同意を文章により得た。

#### C. 研究結果

97人中65人(67%)が腰痛ありと回答した。まず、腰痛あり群と腰痛なし群を比較検討した場合、両群の年齢、性に差はなかった。腰痛あり群では、機能的障害が認められ、SRQ-Dの点数が高く、JOABPEQの社会生活障害、心理的障害、SF-36のVT:活力の点数が有意に低かった( $P < 0.05$ )。また、平成23年度厚労省「慢性の痛み対策研究事業」で作成した生活状況質問票からは、収入への満足度が低く、社会的立場への理解が有意に高い( $P < 0.05$ )という結果が得られた。次に、疼痛あり群の中で年収450万円までの群と(65名中31名、47.7%)と年収451万円以上(65名中34名、52.3%)の群を比較検討した場合、年収450万以上の群は、平成23年度厚労省「慢性の痛み対策研究事業」で作成した生活状況質問票の、喫煙率と情緒不安定になったという項目が有意に高かった( $P < 0.05$ )。

#### D. 考察

看護職員の腰痛には心理的な要因が関与している可能性がある。また、介護士群では介護福祉士群と比べると家族の不理解などの社会的要因も腰痛に関連している可能性がある。

#### E. 結論

看護職員の腰痛発生の要因を評価するには、器質的要因だけではなく非器質的要因である、心理社会的要因に着目する必要がある。

#### F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

1) 森下詔子、田所真紀、北川智子、堀江佳代子、松岡淑子、中尾慎一、石元優々、川上守、和歌山県紀北地方の看護職員の腰痛実態調査、第6回日本運動器疼痛学会、2013.12.神戸

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

